

せいじ 便り

号外



揺るぎない挑戦!!

アフガニスタンでのテロとの戦いは日本自身の問題

国際社会がテロとの戦いを続けるなか、海上自衛隊によるインド洋での給油活動は、日本のため、世界のために我が國が憲法の範囲内で最大限できることを行なうものであり、継続する必要があります。そのためにも、野党との協議によって合意点を見出す努力を続け、防衛省をめぐる様々な不祥事へも対応してまいります。

根拠となるテロ対策特別措置法が11月1日で期限を迎えますので、先般、政府より継続のための「新法」を提案しました。

皆様のご理解とご支援をよろしくお願いします。

「9・11」ニューヨーク・テロでは、日本人24人も命を失いました。日本も自らの問題として、国際社会がアフガニスタンで展開する「テロとの戦い」に貢献しなければなりません。そのことが、日本の生活や安全を守ることにもつながります。テロが頻発し海上の安全が脅かされれば、石油など必要な物資の確保できず、我々の生活に大きな影響があります。



日本は、自立した判断で国際社会において行動する権利と責任があります。もちろん「国連」が一致して行動する場合には、日本も応分の貢献をするべきです。しかし、例えば、国連安保理・理事国の利害対立で国連が一致して行動できないからといって、日本が国際社会で行動できなくなるわけではありません。日本の安全を国連安保理の理事国に委ねてしまうわけにはいきません。

日本自らの決断が重要

ISAFへの参加は憲法上疑義

自衛隊は、給油活動でなくアフガニスタンで活動する国際治安支援部隊（ISAF）へ参加すべきとの意見があります。しかし、アフガニスタン全土で治安維持に当たるISAFは、戦闘を通じて多くの死者を出しています。自衛隊のISAFへの参加は、海外での武力行使を禁止した憲法に違反する可能性が極めて高いです。

民生支援は引き続き実施

日本は、アフガニスタンへの民生支援として、病院・学校再建など約1400億円に及ぶ多大な貢献を既に実施してきています。民生支援は自衛隊による給油活動と両輪をなすものであり、今後とも治安状況を踏まえながら実施していきます。

私はロンドンで生活した4年間、地下鉄に爆弾がしがれたり、バスが爆破されたりと、何度もテロに遭遇しました。幸い、我が国では近年、大規模テロは発生していないましたが、危険は常に身近にあるとの自覚も必要です。



給油活動は貴重な貢献

給油活動には高い技術が必要とされ、日本の活動には、国連や多くの国々から高い評価と感謝が示されています。車社会にガソリンスタンドが必要なように、洋上の給油活動がなければ、船舶は毎回港に戻らざるを得ません。給油活動は、平和憲法を持つ日本ができる貴重な貢献です。また、この活動には、イラク戦争への





都市の緑を守ろう、

そのために都市の農地を守ろう、そんな活動に取り組んでいます。緑のある都市生活には潤いがあります。

元は、狭山丘陵を背に依然として多くの農地を維持し、豊かな緑と水の潤いが、東京のほかのどこにもない魅力的な街づくりの源となっています。しかし、東京全体で見ると緑被率は僅かに6~7%、世界の主要都市はのきなみ20%を超えていました。

では、東京の少ない緑はどうなっているのか。実は、都民一人あたりの公園面積は3.85m²、他方で都民一人あたりの農地面積は6.88m²なのです。新たに公園を作るとなるとかなり財政負担になりますし、農地なくして都市の緑は守れないのです。

ところが、都市の農地が年々減少しています。経済成長と都市開発、とりわけバブル時代の急速な宅地開発が影響しています。しかし、都市農業を

めぐる環境は変化しています。安全で新しい農産品への欲求はもとより、緑と潤いのある街づくり、子供の食育・土への触れ合いの重要性、ヒートアイランド対策、災害時の避難地としての重要性など、都市農地への住民の期待はかつてなく高まっています。



今こそ都市農業・農地を保全し振興するための施策を重点的に取るべきです。現在、政府に対し、都市農業振興の制度的柱、要となっている生産緑地制度、相続税納税猶予制度などの拡充・改善を求め、同僚議員とともに活動を続けております。制度の拡充・改善のためには、都市農地周辺の住民の皆様のご理解も不可欠であり、ご意見をお聞かせいただければ幸いです。

ボランティアを募集しています!!

事務所内における事務ポスター貼り、各種広報物の配布などお手伝いいただけるボランティアを募集しています。どんな事からでもかまいません。政治に興味があるて、木原誠二の政治活動を手伝つてみようと思われる方は是非ご連絡ください。

国会見学に行きませんか?!

木原せいじ事務所では、随時、国会見学を受け付けています。友達や仲間とお誘い合わせの上、是非来館ください。少人数からでもお気軽にご相談いたただければ結構です。テレビで報道される国政の生の現場をご案内します。

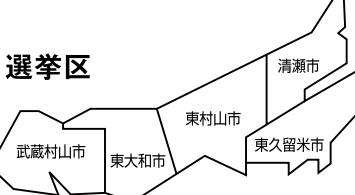


お問い合わせは下記まで

木原せいじ事務所

■国会事務所 〒100-8982
東京都千代田区永田町2-1-2
衆議院第2議員会館606号室
TEL: 03-3508-7606
FAX: 03-3508-3986

■地元事務所 〒189-0013
東京都東村山市栄町2-22-13
松岡ビル2階
TEL: 042-392-4105
FAX: 042-392-4106



木原せいじ プロフィール



- ・私立武藏中学・高校、東京大学法学部卒業
- ・大学時代はテニスで全国選抜3位
- ・平成5年大蔵省(現財務省)入省、主計局、大臣官房、国際局課長補佐、税務署長歴任
- ・その間、英國大蔵省出向(初代)
- ・平成17年9月 衆議院選挙当選
- ・現在、厚生労働委員会、内閣委員会、拉致特別委員会、各委員。党では、国際局次長、青年局次長、女性局次長、学生部参与。
- ・趣味はテニス・ピアノ・散歩。座右の銘「至誠通天」。
- ・著書「英國大蔵省から見た日本」(文春新書)